



岐阜米穀(株) メールマガジン

今回のテーマは

「農業用の窒素原料のアンモニアが、火力発電で燃やされている」

窒素肥料が欧州ではエネルギー政策の影響で価格が高騰。窒素肥料の生産が 7 割も激減して 3 割になってしまったのです。原因は、ロシアが天然ガスの欧州への輸出を止めたことで、アンモニアが肥料原料には使われず、脱炭素の切り札として燃料に使われる動きが強まりつつあると言われています。

日本の実情と違いがあります。

震災で原発を止めることになり火力発電の建設に補助金を出して進めたのですが、あろうことか石炭火力発電を押し進めたのです。その犠牲になっているのが火力発電の CO2 を数字だけを減らす偽装としてアンモニアをミックスさせて燃焼させて、形だけの温暖化対策としているのです。

広島サミットでも先進国として石炭火力の比率が高い日本に対して政府は防御に追われていました。日本の窒素肥料大ピンチなのです。

欧州の事情と日本とは原因に違いがありますので一律には考えられないのです。

ノルウェーにヤラ・インターナショナルという世界最大の窒素肥料メーカーがあります。窒素を原料にアンモニアを製造していますが、昨年秋、そのアンモニアを燃料に振り向ける、近い将来にアンモニア系肥料は確実に不足する、需要家（農業界）にその対策を打つようと警告を発しています。

このような情報や警告は、日本では農水省から流れてきたことはありません。その警告を無視するかのように、肥料高騰対策で農家に補助金をばらまくよりも、確実に起きるアンモニア系肥料の不足に対応した対策を打つべきです。

肥料価格高騰で米産地の県市町村が補助金を出すこととなりました。価格高騰で購買が減り価格が下がり始めたらいつの間にか話題からはずれていますが農家の負担は軽くなっていないのです。

確実に起きる深刻なアンモニア不足でなく、ウクライナ戦争によるロシア産天然ガスの欧州への厳しい輸出制限でアンモニアが深刻な不足に陥ると書かれています。

●穀物のことはお尋ねください~~~~~

穀物の流通から製造・販売までのノウハウを提供します

岐阜米穀は創業 118 年になる米から始まり、雑穀、もち麦、オートミールなどの穀物全般を扱う国内では数少ないメーカーとなります。

穀物は差別化がやりにくい商材です。規制に守られてきた業界特有の慣例であるがゆえ、付加価値創造企業としてチャレンジをしてまいりました。

今まで販社を通して全国の量販店に商品が並ぶまでになりましたが、現在は岐阜米穀は独自に動き出し、プラントベースの原材料としての供給も増えております。

全国をターゲットにして展開するにあたって、取扱商品（穀物）の利益率アップとローコスト体制に取り組んできました。

仕入れは直接輸入をすることで、実績も 30 か国以上になりました。

また、米など規制商材でも業界で出来ないような付加価値づけのチャレンジをしてまいりました。

工場のラインは大ロット・小ロット・個包装などの設備をそろえており、品揃えができる生産体制があります。また、自社倉庫も確保しています。

【提案できる容量】

個包装（スティック）ライン	10g~70g	約 8,400 袋/日×3ライン
卓上計量機ライン	10g~1kg	約 2,450 袋/日×3ライン
全自動包装計量機	100g~1kg	約 10,000 袋/日×3台
六連計量機	100g~1kg	約 2,500 袋/日×1台
二連計量機	100g~1kg	約 2,000 袋/日×1台
自動計量機	2kg~10kg	約 3,000 袋/日×1台

【提案できる原料】

Pea プロテイン（ミンチミート、スライスミート、イエローパウダー）

大豆ミート

オートミール（クイック、ミドル、ロールド）

玄米、黒米、もち玄米（そのまま炊けるグレイン加工の前処理も可能）

もち麦（押麦、玄麦、丸麦）、大麦（丸麦）

雑穀ミックス（国産・輸入）

あわ、きび、ひえ、キヌア、アマランサス、はと麦、とうもろこし等